

白浪時報

2012年
5月6日
第3号発行

発行
白浪五人男
ブログ

姫、恋の滝登り成功せず

婚約者と共に消えた家宝

神輿ヶ嶽崖下に死体

月×日早朝、稲瀬川上流にて、推定一〇代〜二〇代前半と見られる若い女性の遺体が発見された。先日、初瀬寺で失踪した故・小山判官の息女、千寿姫の遺体と考えられる。着衣に乱れはなく、死因は溺死とみられる。

当局は自殺と他殺の両面から捜索している。ただし、最終的に彼女が持参していたと思われる家宝「胡蝶の香合」は



悲劇のヒロイン!?!の千寿姫

なく、初瀬寺で駆け落ちした自称・婚約者の姿もないことから、その男が彼女の死と家宝の紛失に關与しているのではないかと関係者筋はみている。

だんまり 暗闘は顔見世の役 割も兼ねていた?

東京都立図書館HPに、デジタルライブラリーというページがある。その中に三代目 歌川豊国による浮世絵で、「稲瀬川谷底の場」のだ

究極のエコ都市・江戸

江戸時代はエコとリサイクルに特化した社会(もともと、当時の生産量はたかが知れているし、販売網も発達してなかったため、新品は高価な場合が多い)だった。とにかく何でも使い倒し、修理して再利用した。



基本的に醤油や油などは量り売り、紙くずや古着は回収され、壊れた食器は修復して何度も使用された。究極の話、抜け毛も「かもじ」という部分鬘になり、糞尿は肥料となり、重宝された。



こんなN K 朝ドラは嫌だ!

「N Kの朝ドラ」と言えば、朝の放送時間帯だけあって、内容は健全、かつ前向き、主人公も元気で明るく、「みんなの人気者」である。

ただし、常に「性善説」で動く主人公は実に厄介で、時に暑苦しく、無神経で独善的なトラブルメーカーに変貌する。実際、身近にいたら「かなり迷惑な存在」にも思えてくる。ご都合主義なストーリー展開とともに、「世の中そんなに甘くないよ!」と、正直イラッとさせられる。

江戸時代の庶民の間で、「番付」という「格付け」遊びが流行した。元ネタはもちろん相撲番付だが、当時の人々は当代きつての豪商の繁栄ぶりや、義太夫節愛好家の技量をランキングした素人浄瑠璃

格付けしたがる人々

番付など、さまざまなものに格付けをした。中でも役者の力量や人気度・収入金額「格式」の高さを誇る。考にし、劇場も一流の役者を大勢抱えることで、経済力と「格式」の高さを誇

格付けが上がるよう、必死に努力していた。このように「役者評判記」は、単なるガイドブックや人気ランキングだけでなく、役者の所属先とエンタリーシートも兼ねた「宣伝材料」としての役割もあつたのだ。



人気絶頂だった中村芝翫

かおみせ「顔見世」

十一月から新しく抱えた役者を紹介する目的で、興行する芝居。当時(江戸時代)の芝居役者は一年契約で、十一月・三・五・七・九月の年六回興行で、十月に役者の入れ替えを行った。

どうも私自身が、明るく爽やかな朝ドラの主人公とは、正反対のキャラクターのせいか、反感を抱くのもかもしれない。前向きに自分の「弱さ」を少しづつ克服していく話であれば、別に二トの主人公でも共感できるのにな、と思う。

一体なぜ色悪の毒牙にハマる令嬢、続出…

近頃、「色悪」という色男の悪役が、若い女性の間で人気とか。それも、どういふ訳か深窓の令嬢ほど、不良「ワル」にハマるものらしい。



失踪した千寿姫も、婚約者に扮した若い美男に付いて行ったせいで、事件に巻き込まれたものと見られる。ただし彼女の場合、「本物」の婚約者とは面識がなかった、という同情すべき点もあるのだが。

いろあく【色悪】

ちなみに色悪とは社会的地位が低く、ありつた性格が悪くて、妻や恋人を女郎屋に売り飛ばすな

んて朝飯前、お金や出世のためなら、詐欺や人殺しも平気でしてしまふような、イケメンだけが取り柄の若い男のこと。「桜姫東文章」の釣鐘権助や、「東海道四谷怪談」の伊右衛門を想像していたら、分かりやすいかもしれない。

実録・桜姫の転落人生

「桜姫東文章」に登場する桜姫は、釣鐘権助というワルに家宝を盗まれた上に、強姦され、その男の子供まで身ごもつて里子に出してしまつと言つ、波乱万丈な境遇の元お姫様である。

おそらく、わがままに過保護に育てられたとか、或いは女性ばかりで「若い男性のいな

い環境」で育つたかの影響で、「男性を見る目がなかった」と。たまたま出会つた若い男性が権助で、今まで見たこともないような野蛮きわまりない言動が、桜姫には「野性的（ワイルド）」で魅力的に見えたのだらう。

だめんず好き？

よりによって、そんなワルに惚れてしまつたことが、さらなる悲劇を生む。惚れた弱味で結局いように扱われ、貧しい庶民の生活や風習に慣れさせるため、という名目で、場末の売春宿（小塚ッ原）に売られてしまふ。今でもホストに入れば、男の気を引くためにさんざん貢いで、借金づけになつた挙げ句、性風俗業界に踏み込んでしまつた若い女性も



案外いるように、おそらく桜姫もそんな感じなのだらう。

自己犠牲は

自己愛の裏返しか

傍から見ればDV（ドメスティックバイオレンス・恋人または配偶者による暴力）を受けているのに、「普段は荒つぽいけど、時折優しいところがあるのぉ」とのんきに言つてる

「愛情表現」を間違つて受け取るタイプか、「彼のため」に頑張つている自分が「好き」といつた、自分の行為を美化し酔いしれる「自分大好き」タイプかは不明だが。

不定期更新中!
白浪五人男ブログ
<http://srnm5men.seesaa.net/>

素晴らしい適応能力

と、どうでもいい話はさておき、そんなひどい仕打ちをされたなら、千寿姫のように「実家の名誉」のために自決してしまつところだが、どういふ桜姫は強かつた！

上品な言葉と阿婆擦れな言葉の入り交じつた言葉を駆使して、すっかり女郎の世界に馴染んでるのだ。「前世の因縁」

をネタに、幽霊になつても迫り続ける清玄というストーリーカー坊主を追い返すのは大変で、そりゃー下品な言葉で毒づきたく

もなるわさ。どんなに優しくても、相手に「迷惑」と伝わらなきや意味がないと言うか、ガツンと言わなきや分らない人種も、残念ながら存在するのだ。

紳士はお嬢様がお好き？

また男性陣が保守的なのか、ブランド好きなのか不明だが、芸能界は高学歴の女性芸能人が続出し、超お嬢さま学校出身者というだけで扱ひも変わるように、今も昔も「お嬢様」という肩書きが好きだと実感する。

現にこの歌舞伎のモデルとなつた品川宿の遊女は、「由緒ある家柄のお嬢様」という設定で客をとりに、ちよつとした評判だつたようだ。

桜姫も指名率は高そう（幽霊が現れて即キャンセルになつたようだが）で、結構人気があつたのではないかと思う。